



11月29日発行

URL:<https://www.y-nakamura.jp/>

TEL 083-922-0418 文責 鶴永幸彦

いのちの授業 講演会



11月15日（金）いのちの授業講演会と題して、瑠璃光寺住職渡邊博志様にご講演をして頂きました。

動植物の命を頂いて生きていること、過去に遡る多くの命のバトンを受け継いで自分が存在し、自分も命を次につないでいかなければならないこと、男女の付き合いに関して、自分を大切にして慎重に行動することをお話し頂きました。

生徒たちは大切な事に気づき、多くのことを学んだと感想を書いていました。

マラソン大会



11月20日（金）維新公園補助競技場及びその外周を使ってマラソン大会を実施しました。この日までの1か月間、体育の授業で持久走のトレーニングを実施してきました。グラウンド及び校舎の周りを使って走り込み、長距離を走ることにより心身を慣らし、心肺機能を高めてきました。

当日は素晴らしい晴天に恵まれ、絶好のランニング日和でした。生徒たちは、5kmのコースを自分の目標達成に向けて、一生懸命走りました。

大きな舞台で健闘 “ソフトボール部、陸上競技部、調理部”

ソフトボール部、陸上競技部は中国大会、調理部は技能五輪全国大会に出場するため、11月1日（金）壮行式を実施し、選手の志気を鼓舞しました。

残念ながら、入賞には至りませんでした。素晴らしい健闘振りであったと報告を受けました。結果も大事ですが、入賞をめざして、努力を重ねる過程はそれ以上に尊く、今後の人生に大いに役立つことでしょう。

部活動に取り組む良さは様々ありますが、その一つに努力したことが成果となって報われた体験と、努力をしたけれどもそれが報われなかった辛く苦しい体験の両方を味わう事ができる点があります。人生は、報われることも多いですが、そうでないことも時としてあり、昔の経験が免疫となり、次に向かって力強く歩き出せることでしょう。

12月 主な行事

光陰矢のごとしと言いますが、時の経つのは早いもので、いよいよ今年も残すところ一月となりました。今年1年を表す漢字が気になるころですが、大晦日まで気を抜かず、よい締めくくりができるよう最後まで気を引き締めて生活したいものです。

日	曜	内 容
1	日	2年修学旅行
2	月	1・3年期末考査4日目
3	火	1・3年期末考査5日目
5	木	2学年振替休日
11	水	調理科修了発表会
13	金	L3卒業制作発表会
15	日	全商英語検定
17	火	クラスマッチ

日	曜	内 容
18	水	クラスマッチ、生徒会役員選挙
19	木	保護者会
20	金	保護者会
23	月	保護者会
24	火	終業式、生徒会役員退任式、大掃除
25	水	冬季進学課外授業(～12/27) 学習相談日(～12/27)
27	金	校務納め

地域に貢献し、地域で活躍する中女の生徒

本校のめざす生徒像の一つに、「地域に貢献し、地域で活躍する生徒の育成」を掲げています。

その一環として、10月12日(土)白石小学校で実施された「大いちょうバザール」に看護科、福祉科、調理科の生徒たちが参加して会を盛り上げましたし、11月17日(日)には白石地域交流センターを中心に周辺を含めて開催された白石フェスティバルにも、福祉科、調理科、普通科ファッションデザインコースがブースを設けて、幼児にゲームを体験させたり、焼き菓子の販売、手作りのぬいぐるみ・小物を販売したりして協力しました。

どちらのイベントも大盛況で、多くのお客さんで賑わっていました。自分たちが日頃学習していることを活かして、地域に貢献し喜んでもらえることを通して、自己有用感が上がり、自己肯定感も高まって、相乗効果です。

災害が発生し、甚大な被害がもたらされた場合など、人のつながりの重要性がクローズアップされますが、日頃からのこうした地域に根ざした取組が万が一の時、きっと大きな助けや強みとなって人々を支援し、支えることにつながっていくことと思います。中女はこれからも、地域に積極的に出て行きます。

写真はHPにてご覧ください。

いい本は人生を豊かにしてくれる

子育ては一大事業です。しかし、日々の仕事や生活に追われて、なかなか十分に子どもに関わることが難しい現実もあります。また、発達段階によっては、親とのかかわりを避ける状況もあったりします。だからこそ、日々の挨拶や言葉がけは大事にしていきたいものです。



『犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉』 出口保行 著 SB新書

子どもにとって良かれと思ってかけた言葉が、意図に反して子どもを追い込んだり、ダメにしてしまっていることがあることが具体的な事例をもとにわかりやすく書かれています。どう言葉がけをすればよいのかも書かれていて、大変参考になります。養育態度の分析もあり、自分自身の子どもへのかかわり方を振り返り、より適切なかかわりへの修正に役立ちます。